

## 調査成果 《縄文～弥生時代 花月園競輪場跡地》横浜市鶴見区 生麦八幡前遺跡

本遺跡は、鶴見川最下流の右岸にあたり、蛇行しながら南下して東京湾に注ぐ、京浜急行花月園前駅の西側の台地上に位置します。今回の調査では、縄文時代中期後葉の住居が発見されました。J2号竪穴住居では、床面直上から釣手土器、倒置された深鉢等の縄文土器にくわえ、打製石斧が集中して出土しました。また、床面から浮いた状態で貝層が発見されています。貝はイボキサゴを主体にハイガイ・マガキ等が含まれます。出土した土器から、縄文時代中期後葉の遺構と考えられます。

周辺地域での調査事例が少ない中、本遺跡の調査によって鶴見川流域に広がる台地上に形成された縄文時代の集落にくわえ弥生時代の住居の存在も明らかになり、長期にわたる当時の人々の生活の一端を知ることができます。



J2号竪穴住居



床面直上の土器



住居内の貝層

## 調査成果 《弥生時代～近世 自然堤防上に築かれた遺跡》厚木市戸田小柳遺跡

本遺跡は相模川右岸、標高13～14m付近の沖積微高地に立地しており、発掘帖22号で紹介した「位至三公鏡」が出土した遺跡です。調査は平成24年から26年にかけて1・2次調査を終え、



溝の中の堆積状況



弥生時代の溝と木製品

遺跡って低い土地にもあるんだね～。山とか台地ばかりに集中してるのかと思ってた…。

水も湧いてきて大変な調査をしてるんだね！



遺跡全景(側道用地部分)

平成28年4月から3次調査を実施しています。遺構は溝や自然流路が主体で、居住区域の中心範囲とは異なる地点と考えられます。遺跡は相模川流域に形成された自然堤防上にあり、相模川や玉川の氾濫と考えられる二次堆積層で地層が構成されています。地表から約2m下の弥生時代から近世に至るまで自然流路とともに溝がいくつも検出されていることから、治水や利水を行ってきた場所であると考えられます。二次堆積層からは平面的な遺構の範囲が不明瞭で、断面観察により正確な位置や形状を確認し、土層の詳細な観察がより一層重要となる調査を行っています。

## 調査成果 《縄文時代の埋没谷と集落》伊勢原市西富岡・向畑遺跡

本遺跡では、全長56.4m、上端幅35m、下端幅4.3m、深さ6.5mの埋没谷が見つかり、谷底から縄文時代の土坑が46基以上発見されました。土坑は、東西2列に並列して上流から下流まで検出されました。土坑の中からは、土器や大型礫の他に石皿や石棒が見つかり、トチやクルミなどの堅果類、木製品などは見つかりませんでした。

埋没谷の肩部に接して、縄文時代後期の敷石住居跡が複数軒見つかりました。それらの住居跡は、数軒重なって見つかりました。谷底から約50cmの位置からも敷石住居の痕跡や石囲炉などが見つかりました。埋没谷の周辺からは、100軒以上の住居跡が見つかり、谷を中心として大集落が展開していました。



大型の礫が廃棄された土坑



縄文時代の埋没谷

## 調査成果 《C14年代測定法で明らかになった旧石器時代の年代》秦野市 葛蒲平台遺跡

調査では、旧石器時代終末期に出現する細石刃石器群が発見されました。細石刃は、幅1cm以下のカミソリのような石器で角や骨、硬木等の柄に複数埋め込んで槍やナイフなどとして使用しました。その他、礫器や台石、叩石などおそらく加工具として使用された石器や、細石刃を剥ぎ取った細石刃核等が出土しました。



細石刃核(上)と細石刃



遺物出土状況

考古学は科学の力も使って年代を考えていきます。



石器は尾根状の台地先端部に6カ所の集中地点(ブロック)にまとまって出土し、石器の製作跡があったと推測されます。また、石器に伴って炭化物が検出され、複数の炭化物を試料とし、放射性炭素C14年代測定を実施した結果、今からおよそ17,500～17,900年前と推定されました。発見された細石刃石器群は、今後当該期の石器群を比較検討する上で、重要な資料になると思われます。